

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

テクニカラー・プリントでみる
NFC所蔵外国映画選集

Selected Films Printed by Technicolor I. B. Process
From the National Film Center Collection

2014年1月23日(木) - 2月12日(水)

1月の休館日:

月曜日, 2013年12月28日(土) - 2014年1月6日(月)

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



テクニカラー・プリントでみる
NFC所蔵外国映画選集



Selected Films Printed by Technicolor I. B. Process
From the National Film Center Collection

2014

1

NFCカレンダー
2014年1月号

大ホール 上映作品

テクニカラー・プリントのみ
NFC所蔵外国映画選集
Selected Films Printed by Technicolor I. B. Process
From the National Film Center Collection

映画は、様々なメディアに移し替えることが可能な複製芸術でありながら、常に具体的な物質と不可分に結びついた1本1本のフィルムでもあります。そして、映画の歴史は技術や規格の変遷でもある以上、フィルム・アーカイブの活動は、映画のコンテンツ(内容)のみならずキャリア(フィルムそのもの)やコンテキスト(周辺資料等)を保存することにも向けられています。

本上映会は、フィルムセンターがこれまでに収集した外国映画の中から、日本公開当時に用いられたオリジナルのプリントを選び紹介するもので、とくに今回は、1950年代から1970年代にかけて上映されたテクニカラー・プリントを紹介する運びとなりました。三色に分解された(3本の)白黒のネガからポジフィルムを複製し、三色の染料を順に転染するテクニカラー・インビジョン(IB / 捺染方式)プロセスは、1930年代以降全盛を迎え、多層式カラー・ポジを用いたイーストマンカラーが台頭する1950年代まで“総天然色映画”の代名詞として一時代を画し、彩度が高い独特の色調で観客を魅了しましたが、その後も1970年代前半までは、多くの作品がテクニカラー・プロセスを用いたプリントで公開されていました。また、多層式カラー・フィルムのように経年による著しい褪色が見られないのもテクニカラー・プリントの特徴とされています。それらの中から16本を連続上映する本特集は、既にテクニカラー IBプロセスが消滅して久しい今日、リバイバル用に作られたニュー・プリントでは再現することのできない作品の本来の姿を知るための貴重な機会となるでしょう。

皆様のご来場をお待ち申し上げます。

*本特集で上映するプリントには、傷や汚れのついたものも含まれています。あらかじめご了承ください。

- ◎=監督 ◎=原作・原案 ◎=脚本・脚色 ◎=撮影 ◎=美術 ◎=音楽 ◎=出演
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。
- 上映作品には全て日本語字幕が付いています。

大ホール
開映後の入場はできません。
定員=310名(各回入替制)

【特別料金】
一般1,000円 / 高校・大学生・シニア800円 / 小・中学生600円 / 障害者(付添者は原則1名まで)は無料 / キャンパスメンバーズ400円(学生), 500円(教職員)

- 発券=2階受付
- 観覧券は当日・当該回のみ有効です。
 - 発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
 - 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
 - 発券は各回1名につき1枚のみです。

1 1/23(木)3:00pm 2/1(土)4:00pm

西部は俺に任せろ

(74分・35mm・カラー) THREE HOURS TO KILL
恋人(ドナ・リード)の兄を殺した罪を着せられた男(ドナ・アンドリュース)が、三時間という限られた時間のなか命がけて真相の究明に挑む。フィルム・ノワール作品『夜歩く男』(1948)などで知られるアルフレッド・ワーカー監督による西部劇の佳作。撮影は『上海から来た女』(1947)、『長い灰色の線』(1955)のチャールズ・ロートン・ジュニア。

'54(アメリカ)◎アルフレッド・ワーカー◎アレックス・ゴットリーブ◎ロイ・ハギンズ、リチャード・アラン・シモンズ◎チャールズ・ロートン・ジュニア◎ジョージ・ブルックス◎ポール・ソテル◎ダナ・アンドリュース、ドナ・リード、ダイアン・フォスター、ステイヴン・エリオット、リチャード・クーガン、ローレンス・ヒューゴ

2 1/25(土)4:00pm 2/5(日)3:00pm

フレンチ・カンカン

(103分・35mm・カラー・英語字幕付き)

FRENCH CANCAN

モンマルトルの酒場で生き生きと踊る美しい娘(フランソワーズ・アルヌール)に心を動かされた興行師(ジャン・ギャパン)が、かつてのカンカンを復活させようと「ムーラン・ルージュ」を建設する。踊り子たちのほじけるような笑顔や華やかなダンスに彩られたジャン・ルノワールの代表作。今回のプログラム中、撮影時にも3本の白黒ネガ・フィルムを使用する方式(テクニカラー・プロセスNo.4)で製作された唯一の作品である。

'54(フランス=イタリア)◎ジャン・ルノワール◎アンドレ・ポール・アントワヌ◎ミシェル・ケルペール◎マックス・ドゥーイ◎ジョルジュ・ヴァン・パリス◎ジャン・ギャパン、マリア・フェリックス、フランソワーズ・アルヌール、ジャン・ロジェ・コシモン、ジャンニ・エスポジット、フィリップ・クレ、ミシェル・ピコロ、ジャン・パレダス

3 1/25(土)1:00pm 2/4(日)3:00pm 2/12(日)7:00pm

旅情(95分・35mm・カラー)SUMMERTIME

アーサー・ローレンツ原作のブロードウェイ戯曲を、『逢ひき』(1945)で道ならぬ恋を描いた名匠デヴィッド・リーンが名女優キャサリン・ヘパバーンと組み映画化。アメリカ人キャリア・ウーマンが人生の休息を求めてヴェネツィアを訪れ、現地の妻子ある男性と恋に落ちる姿を生き生きと描く。初めてイギリス以外を舞台にしたリーン作品で、夏のヴェネツィアでのロケーション撮影が、大ヒット主題歌「サマータイム・イン・ヴェニス」と相まって、旅先のロマンスを華やかに彩っている。

'55(アメリカ=イギリス)◎デヴィッド・リーン◎アーサー・ローレンツ◎H・E・ベイツ◎ジャック・ヒルダヤード◎ヴィンセント・コルダ◎アレックス・ロ・チコニニ◎キャサリン・ヘパバーン、ロッサノ・ブラッツィ、イザ・ミランダ、ダレン・マクギャヴィン、マリ・アルドン

4 1/23(木)7:00pm 2/2(日)1:00pm

鮮血の午后(79分・35mm・カラー)

TARDE DE TOROS

マドリドの著名なラス・ベントス闘牛場を舞台に、3人の闘牛士の生きざまを実話に基づいて描く。ラディスラオ・パホダ監督と撮影のエンリケ・ゲルネルのコンビが『汚れなき悪戯』(1955)に続いて撮った作品で、ベテランのドミンゴ・オルテガをはじめ、実際のプロの闘牛士たちが本人の役を演じている。

'56(スペイン)◎ラディスラオ・パホダ◎マヌエル・タマヨ、フリオ・コール◎ホセ・サントウグニ◎エンリケ・ゲルネル◎アントニオ・シモン◎ホセ・ムニョス◎モジェダ◎ドミンゴ・オルテガ、アントニオ・ビセンペーナ、エンリケ・ベラ、マリア・アスケリーノ、マリサ・ブラド



フレンチ・カンカン

5 1/24(金)3:00pm 2/2(日)4:00pm

遙かなる国から来た男

(97分・35mm・カラー)

LE PAYS D'OU JE VIENS

クリスマスの小さな町を舞台にしたロマンティック・コメディ。マルセル・カルネのカラー第1作となった。どこからともなく姿を現した男と、彼に瓜二つのピアニストの二役をシャンソン歌手のジルバール・ペコーが演じて映画初出演、『フレンチ・カンカン』(1954)『ヘッドライト』(1956)で人気絶頂のフランソワーズ・アルヌールと共演している。

'56(フランス)◎マルセル・カルネ◎ジャック・エマニュエル◎マルセル・アシャール◎フィリップ・アゴスティニ◎ジャン・ドゥアリヌ◎ジルバール・ペコー◎フランソワーズ・アルヌール、マドレーヌ・ルボン、ガブリエロ、クロード・ブラスール、ジャン・トゥロ、ジャン・ピエール・プレメ、ジャンタル・ゴジ

6 1/24(金)7:00pm 2/1(土)1:00pm

眼には眼を(110分・35mm・カラー)

GEIL POUR GEIL

十分な診療を受けられずに妻を失った男ボルク(フォルコ・ルツリ)は、最初に診療を断り別の病院を紹介したフランス人医師(クルト・ユルゲンズ)に、我が身の危険もかえりみず復讐しようとする。フランスの社会派監督として知られたアンドレ・カイヤットが、シリアを舞台に、現地人たちの白人に対する憎悪を描き上げた。

'57(フランス=イタリア)◎アンドレ・カイヤット◎ヴァエ・カチャ◎クリスチャン・マトラス◎ジャック・コロンビエ◎ルイギ◎クルト・ユルゲンズ、フォルコ・ルツリ、パスカル・オードレ、レア・パドヴァニ、ダリオ・モレノ、ロベール・ポルト、ポール・フランクール

7 1/26(日)1:00pm 2/5(日)7:00pm 2/7(日)3:00pm

カジノ・ド・パリ(101分・35mm・カラー)

CASINO DE PARIS

パリの名物劇場「カジノ・ド・パリ」を舞台に、劇作家の秘書と踊子の恋物語を描くバックステージもの。共に当時国際的に人気があった若手歌手の2人が主役を務め、ヴィットリオ・デ・シーカが、著名だが創造力の枯渇した老劇作家役を好演。劇中パレエ「魔術師」の場面は、名手アンリ・アルカンによる撮影である。

'57(フランス=西ドイツ=イタリア)◎アンドレ・ユヌベル◎ジャン・アラン、ハンス・ウィルヘルム◎ブルーノ・モンティ、アーウィン・ヒラー◎ルネ・ムレ、ヴィリー・シャッツ◎ジルバール・ペコー◎ポール・デュラン、ハインツ・ギーツ、ハインツ・キースリンク◎カテリーナ・ヴァレンテ、ヴィットリオ・デ・シーカ、グレーテ・ヴァイザー、グレゴワール・アスラン、ルドルフ・フォーゲル

8 1/28(日)3:00pm 2/6(日)7:00pm

殿方ご免遊ばせ(85分・35mm・カラー)

UNE PARISIENNE

ブリジット・バルドーの代表的なロマンティック・コメディ作品。フランス首相の一人娘が官房長官と結婚するが、夫は浮き名が絶えず、娘は仕返しに滞在中の外国の王子と浮気をする…。『この神聖なお転婆娘』(1956)に続き、ミシェル・ポワロンがバルドーの魅力を生分に引き出している。

'57(フランス=イタリア)◎ミシェル・ポワロン◎アネット・ワドマン◎ジャン・オーレル◎ジャック・エマニュエル◎マルセル・グリニオン◎ジャン・アンドレ◎アンリ・クロラ、ユベール・ロスタン、アンドレ・オデル◎ブリジット・バルドー、シャルル・ボワイエ、アンリ・ヴィダール、ナディア・クレイ、アンドレ・リュゲ



鮮血の午后

9 1/26(日)4:00pm 2/6(木)3:00pm

恋人泥棒(90分・35mm・カラー・英語版)

A FINE PAIR

ロック・ハドソン演じるニューヨークの刑事とクラウディア・カルディナーレ扮する美貌の宝石泥棒が恋の駆け引きを繰り広げるコメディ。カルディナーレが身につけるファッションブルな衣裳の数々も見所。音楽はエンニオ・モリコーネの代表作の一つにもなっている。

'68(イタリア)◎フランチェスコ・マゼッリ◎ルイザ・モンタナ◎ヴァージル・C・レオーネ◎アルフィオ・コンチーニ◎ルチアーノ・ブッチーニ◎エンニオ・モリコーネ◎ロック・ハドソン、クラウディア・カルディナーレ、レオン・アスキニ、トーマス・ミリアン、エレン・コルビー、ヴァルター・ギラー、グイド・アルベルティ、ピーター・デーネ

10 1/28(火)7:00pm 2/8(土)1:00pm 2/12(水)3:00pm

華麗なる週末(107分・35mm・カラー)

THE REIVERS

D・H・ロレンスの中篇の映画化『女狐』(1967)で監督デビューしたマーク・ライデルの2作目で、原作はフォークナーの最後の小説『自動車泥棒』。当人気絶頂のステイヴ・マックイーンがミシシッピ州の農場の使用人ブーンに扮し、年上の友人として農場主の息子を導き、購入したばかりの黄色い車に乗ってメンフィスまで4日間の冒険をくり広げる姿をのびやかに演じている。

'69(アメリカ)◎マーク・ライデル◎ウィリアム・フォークナー◎アーヴィング・ラヴェッチ、ハリエット・フランク・ジュニア◎リチャード・ムーア◎チャールズ・ペイリー、ジョエル・シラー◎ジョン・ウィリアムズ◎ステイヴ・マックイーン、シャロン・ファレル、ミッチ・ヴォーゲル、ルース・ホワイ、マイケル・コンスタンティン、クリフトン・ジェームズ

11 1/29(水)7:00pm 2/8(土)4:00pm

モンテ・ウォルシュ(99分・35mm・カラー)

MONTE WALSH

『ローズマリーの赤ちゃん』『ブリット』(共に1968)などの名カメラマンとして知られるウィリアム・A・フレイカーの初監督作品。リー・マーヴィンとジャック・パランス、ヒロインにジャンヌ・モローを迎え、時代の波から取り残されたカウボーイたちの姿を哀切をこめた眼差しで描く。

'70(アメリカ)◎ウィリアム・A・フレイカー◎ジャック・シェアファア◎ルーカス・ヘラー、デイヴィッド・ツェラグ◎グッドマン◎デイヴィッド・M・ウォルシュ◎アルバート・ブレナー◎ジョン・ハリー◎リー・マーヴィン、ジャンヌ・モロー、ジャック・パランス、ミッチェル・ライアン、マイケル・コンラッド、ジム・デイヴィス、アリン・アン・マクレリー、G・D・スブラッドリン、エリック・クリスマス、ジョン・カーター

12 1/29(水)3:00pm 2/7(金)7:00pm 2/9(日)1:00pm

クリスマス・キャロル(118分・35mm・カラー)

SCROOGE

『ボセイドン・アドベンチャー』(1972)のロナルド・ニームがディケンズの小説をミュージカル化したクリスマス映画の代表作で、レスリー・ブリカッスの脚本、詞、音楽は、後に舞台化もされている。撮影時に30代前半だったアルバート・フィニーが悪辣な商人スクルージに扮し、彼の過去、現在、未来を演じ分けるのも見もの。

'70(アメリカ)◎ロナルド・ニーム◎チャールズ・ティケンズ◎レスリー・ブリカッス◎オズワルド・モリス◎テリー・マーシュ◎アルバート・フィニー、アレック・ギネス、イーディス・エヴァンス、ケネス・モア、ローレンス・ネイスミス、デイヴィッド・コリンズ、アントン・ロジャーズ、パティーン・ストーン、リチャード・ボーモン



華麗なる週末

13 1/30(木)3:00pm 2/9(日)4:00pm

リオ・ロボ(111分・35mm・カラー)

RIO LOBO

巨匠ハワード・ホークスの遺作であり、『リオ・ブラボー』(1959)『エル・ドラド』(1966)に続く、ジョン・ウェイン主演の「3部作」の最後の作品。北軍大佐が、南北戦争終結後、かつて戦った南軍の大尉と協力して、戦時の金塊輸送列車襲撃事件の黒幕を暴く。蜂を用いた列車襲撃と終盤の人質交換の描写は、古典映画の鑑ともいべき鮮やかな手並みである。

'70(アメリカ)◎ハワード・ホークス◎バートン・ウォール◎リー・ブラケット◎ウィリアム・H・クロウ◎ジャック・ロバート◎E・Sミス◎ジェリー・ゴルドスミス◎ジョン・ウェイン、ホルヘ・リベロ、ジェニファー・オニール、ジャック・イーラム、クリストファー・ミッチャム、ヴィクター・フレンチ、シェリー・ランシング

14 1/30(木)7:00pm 2/11(火・祝)1:00pm

遙かなる青い海(91分・35mm・カラー)

OCEANO

海中撮影のドキュメンタリー『青い大陸』(1954)や劇映画『チコと鯨』(1962)などで知られる、フォルコ・クイリチ監督による海洋映画。ポリネシアの小島に住む青年が、パンノキを育てるための土を求めて、カヌーで島々を移動しながら人々と交流する姿を描く。物語終盤には、水爆実験への強烈な批判が展開される。

'71(イタリア)◎フォルコ・クイリチ◎ジョルジョ・アルロリ◎ベルト・ペロツィ◎ジョヴァンニ・スカルベリーニ、リカルド・グラゼッティ、ヴィットリオ・ドラゴネッティ◎エンニオ・モリコーネ◎W・M・レノ、ユベール・ブチーニ、K・イムリエ、E・テバマ、ルイ・ステッソ

15 1/31(金)3:00pm 2/11(火・祝)4:00pm

ロイ・ビーン(120分・35mm・カラー)

THE LIFE AND TIMES OF JUDGE ROY BEAN

テキサスの無法地帯に現れた流れ者が自ら判事を名乗り、力で町を治めるが…。『首吊り判事』の異名で知られた実在の人物をポール・ニューマンが演じた、ジョン・ヒューストン監督の異色西部劇。ガンマンの腹に巨大な風穴が開く演出はアンソニー・M・ドーソンの『地獄の謝肉祭』(1980)、サム・ライミの『クイック&デッド』(1995)などに受け継がれている。

'72(アメリカ)◎ジョン・ヒューストン◎ジョン・ミリアス◎リチャード・ムーア◎タンビン・ラーセン◎モーリス・ジャール◎ポール・ニューマン、ジック・グリーン、ピセット、ヴィクトリア・プリンスパル、タブ・ハンター、ステイシー・キーチ、ロディ・マクドウォール、アンソニー・パーキンス、ネッド・ビーティ、エヴァ・ガードナー

16 1/31(金)7:00pm 2/4(火)7:00pm

空手アマゾネス

(91分・35mm・カラー・英語版)

THE AMAZONS

鉄の掟に支配されたアマゾネス軍団と、用心棒を雇い「カスビアン空手」を身に付けた村人の対決を描いたエロティックなアクション映画。テレンス・ヤング監督『アマゾネス』(1973)のヒットとカンフー映画の世界的ブームの中で公開された1本。翌年には同じアル・ブラッドリー(アルフォンソ・ブレスシア)によるイタリア＝香港＝メキシコ合作映画『アマゾネス対ドラゴン 世紀の激突』も公開された。

'73(イタリア＝スペイン)◎アル・ブラッドリー◎フェルナンド・イズカイノ◎カサス◎マリオ・アメンドラ、ブルーノ・コルプッチ◎ファウスト・ロッシ◎バルトロミオ・スカヴィア◎フランコ・ミカリッツィ◎リンカーン・テイト、ロバート・グイドマーク、ルクレチア・ラブ、ソルヴィ・スタビング、パオラ・テデスコ、ミルタ・ミラ、ベネート・ステファネッリ、ゲニア・ウッズ



クリスマス・キャロル

企画展

小津安二郎の図像学

Iconography of Yasujiro Ozu

2013年12月12日(金)～2014年3月30日(日)

*月曜日、2013年12月28日(土)～2014年1月6日(月)は休室

映画監督小津安二郎の生誕110年と没後50年を記念して、絵画・デザイン・文字など小津作品をめぐるさまざまな図像に注目し、新たな切り口で小津独自の美的感性を浮き彫りにします。

・詳細は当該チラシまたはフィルムセンターのホームページをご覧ください。



『秋刀魚の味』(1962年)セット写真
バーの看板類は小津のデザインによる

常設展 企画展に併設

NFCコレクションでみる

日本映画の歴史

Nihon Eiga: The History of Japanese Film From the NFC Non-film Collection

映画の渡来した19世紀末から発展を続け、二つの黄金時代を経験した日本映画の豊かな歴史を、長年フィルムセンターが収集してきた多彩なコレクション(ポスター、スチル写真、雑誌、製作資料、業界資料、カメラなど機械類、映画人の遺品、映像など)によってたどります。日本映画史の新しい学びの場として、小学生から大人まで幅広い世代の方々を対象とする内容になっています。(Captions in Japanese and English)

開室時間＝午前11時～午後6時30分

(入場は午後6時まで)

料金(企画展・常設展共通)＝一般200円(100円)／大学生・シニア70円(40円)／高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATバスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。

* フィルムセンターが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

常設展ギャラリートーク

毎月第一土曜日12時より(休室の場合は第二土曜日) 1月11日、2月1日

2階受付では、「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



テクニカラー・プリントでみる **NFC**所蔵外国映画選集
Selected Films Printed by Technicolor I. B. Process
From the National Film Center Collection

月	火	水	木	金	土	日	
1月			1 3:00pm 西部は俺に任せろ (74分)	5 3:00pm 遙かなる国から来た男 (97分)	3 1:00pm 旅情 (95分) *トーク・イベントがあります	7 1:00pm カジノ・ド・パリ (101分)	
	カジノ・ド・パリ		4 7:00pm 鮮血の午后 (79分)	6 7:00pm 眼には眼を (110分)	2 4:00pm フレンチ・カンカン (103分)	9 4:00pm 恋人泥棒 (90分)	
	8 3:00pm 殿方ご免遊ばせ (85分)	12 3:00pm クリスマス・キャロル (118分)	13 3:00pm リオ・ロボ (111分)	15 3:00pm ロイ・ビーン (120分)	6 1:00pm 眼には眼を (110分)	4 1:00pm 鮮血の午后 (79分)	
2月	10 7:00pm 華麗なる週末 (107分)	11 7:00pm モンテ・ウォルシュ (99分)	14 7:00pm 遙かなる青い海 (91分)	16 7:00pm 空手アマゾネス (91分)	1 4:00pm 西部は俺に任せろ (74分)	5 4:00pm 遙かなる国から来た男 (97分)	
	3 3:00pm 旅情 (95分)	2 3:00pm フレンチ・カンカン (103分)	9 3:00pm 恋人泥棒 (90分)	7 3:00pm カジノ・ド・パリ (101分)	10 1:00pm 華麗なる週末 (107分)	12 1:00pm クリスマス・キャロル (118分)	
	16 7:00pm 空手アマゾネス (91分)	7 7:00pm カジノ・ド・パリ (101分)	8 7:00pm 殿方ご免遊ばせ (85分)	12 7:00pm クリスマス・キャロル (118分)	11 4:00pm モンテ・ウォルシュ (99分)	13 4:00pm リオ・ロボ (111分)	
14 1:00pm 遙かなる青い海 (91分)	10 3:00pm 華麗なる週末 (107分)					15 4:00pm ロイ・ビーン (120分)	3 7:00pm 旅情 (95分)

■トーク・イベントのお知らせ
1月25日(土) 1:00pmの回
『旅情』上映後に下記の講演があります。
「本物のテクニカラーとは」
三隅繁氏(映画技術史研究)
*トーク・イベントのみの参加はできません。



旅情



ロイ・ビーン

図書室カレンダー

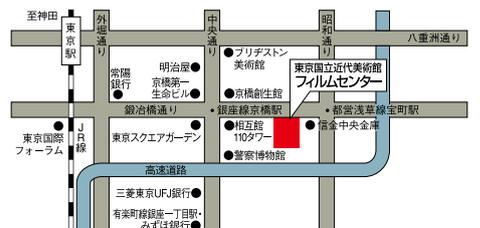
赤字は休室日

1月

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区区橋3-7-6

▼交通:

- 東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
- 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
- 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
- JR東横線八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600

NFCホームページ:
<http://www.momat.go.jp/>
NFC携帯電話ホームページ:
<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>



図書室(4階) 開室=火曜日-土曜日(午後0時30分-午後6時30分/入室は午後6時まで) 閉室=休館日および日曜日・祝日